

第1章 基本方針

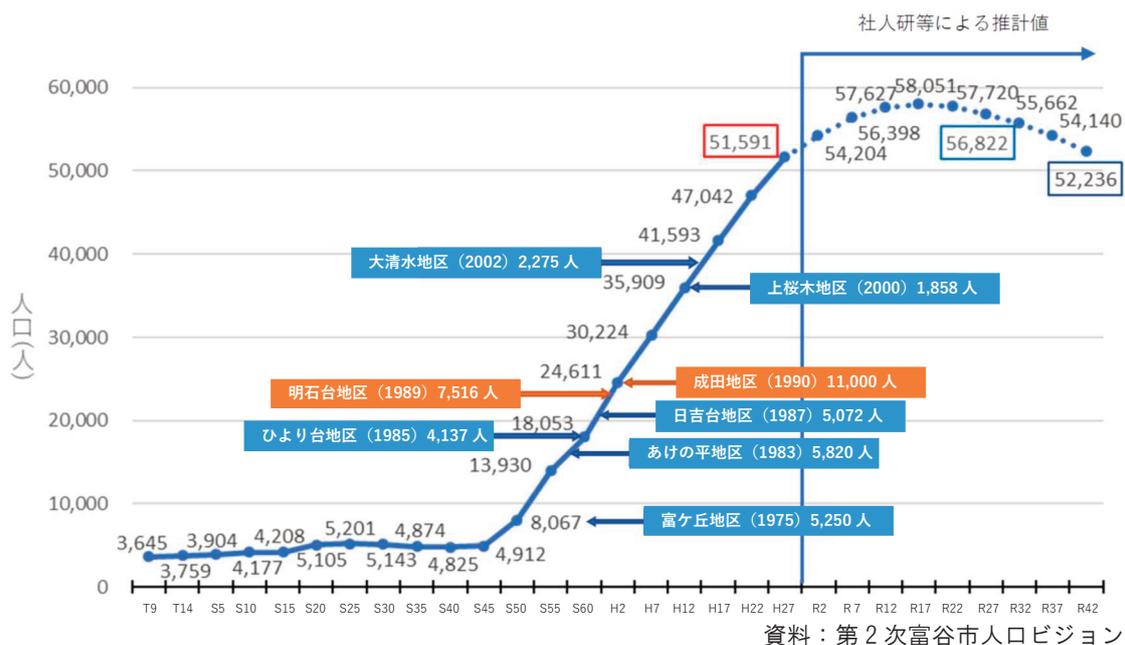
この章は、富谷市がめざす「都市の将来像・まちづくり方針」や「将来都市構造」、この実現に向けた「基本目標」を整理しています。

1 富谷市の概況及び見通し

① 市全体の人口動向・見通し

本市の人口は、昭和 50 年代以降、大規模な面開発に伴い急激な増加傾向で推移しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、人口は今後も増加が見込まれており、令和 17 年には 58,051 人となる予測となっています。

<市全体の人口動向・見通し>

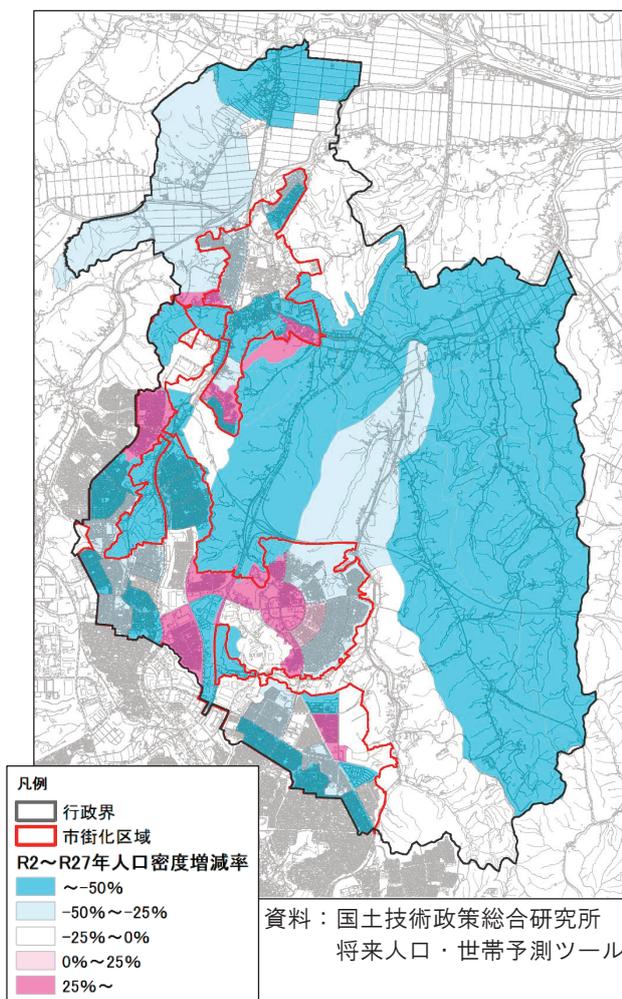


② 地区別の人口推計

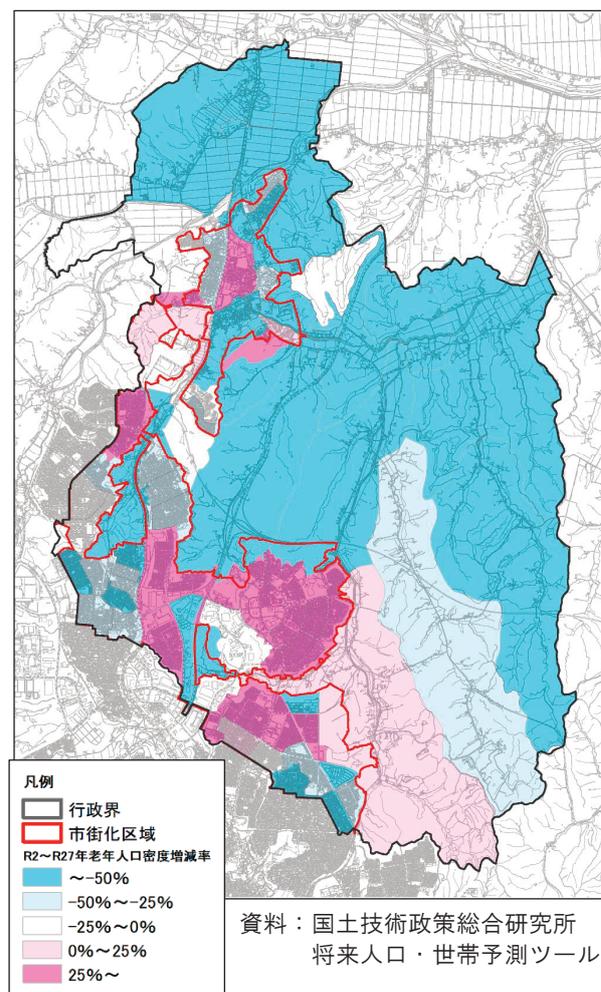
本市の地区別の人口推計をみると、令和2年から令和27年にかけて成田地区、大清水地区、上桜木地区、杜乃橋地区で人口の増加が予測されています。一方で、しんまち地区やあけの平地区では人口が減少する予測となっています。

また、成田地区、大清水地区、上桜木地区、明石台地区、杜乃橋地区については、令和2年から令和27年にかけて高齢化の急激な進行が予測されています。

＜本市の地区別人口密度増減率（R2～R27）＞



＜本市の地区別老年人口密度増減率（R2～R27）＞

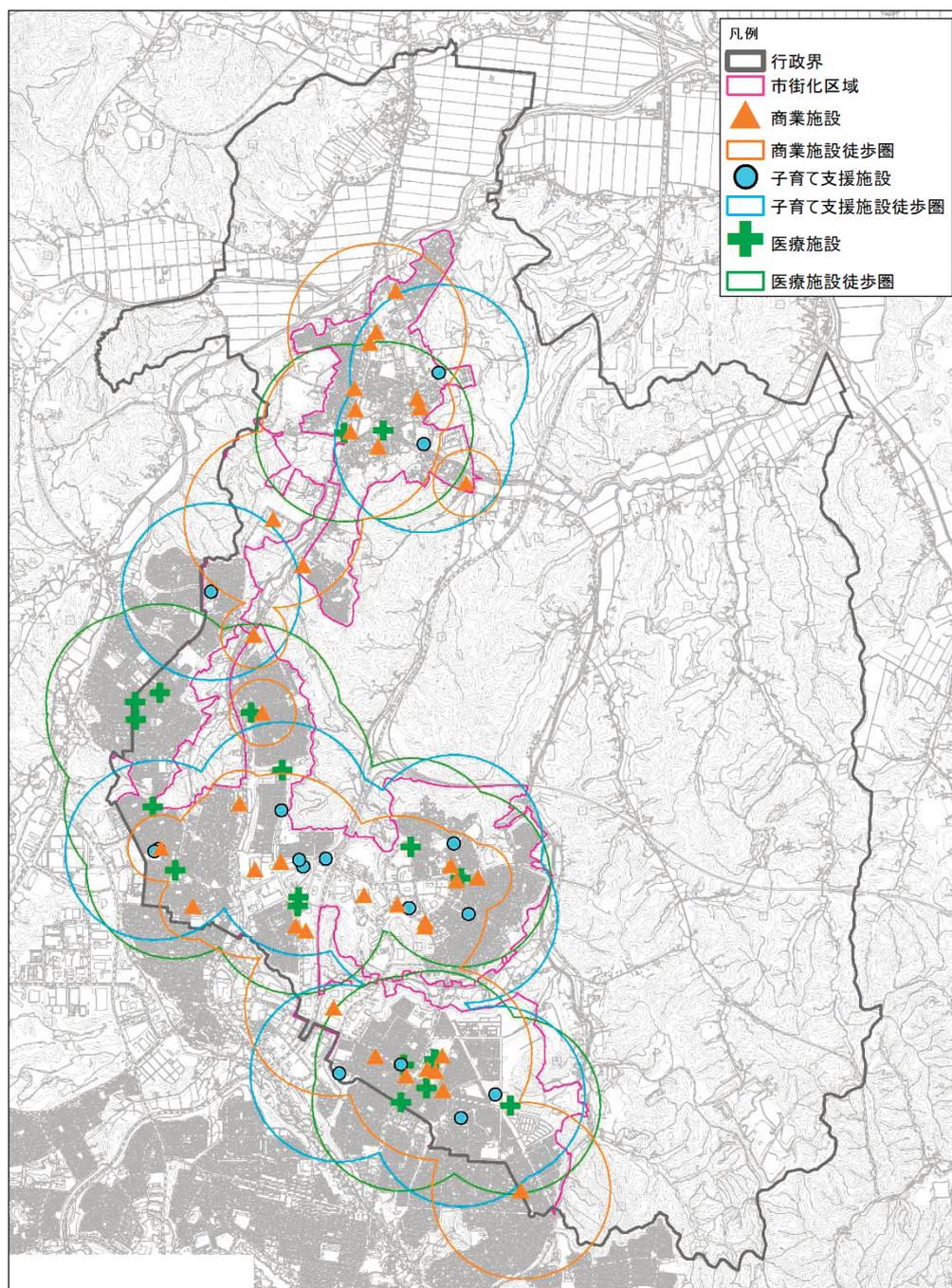


③ 都市機能分布

本市の医療施設、商業施設、子育て支援施設の施設分布と各施設の徒歩圏をみると、明石台地区、成田地区、大清水地区、しんまち地区については、医療施設、商業施設、子育て支援施設すべての徒歩圏内となっており、歩いて暮らせる環境が形成されています。

商業施設については、市街地の広範囲が徒歩圏となっており市全体で便利な生活環境が形成されています。

＜本市の都市機能の分布状況＞

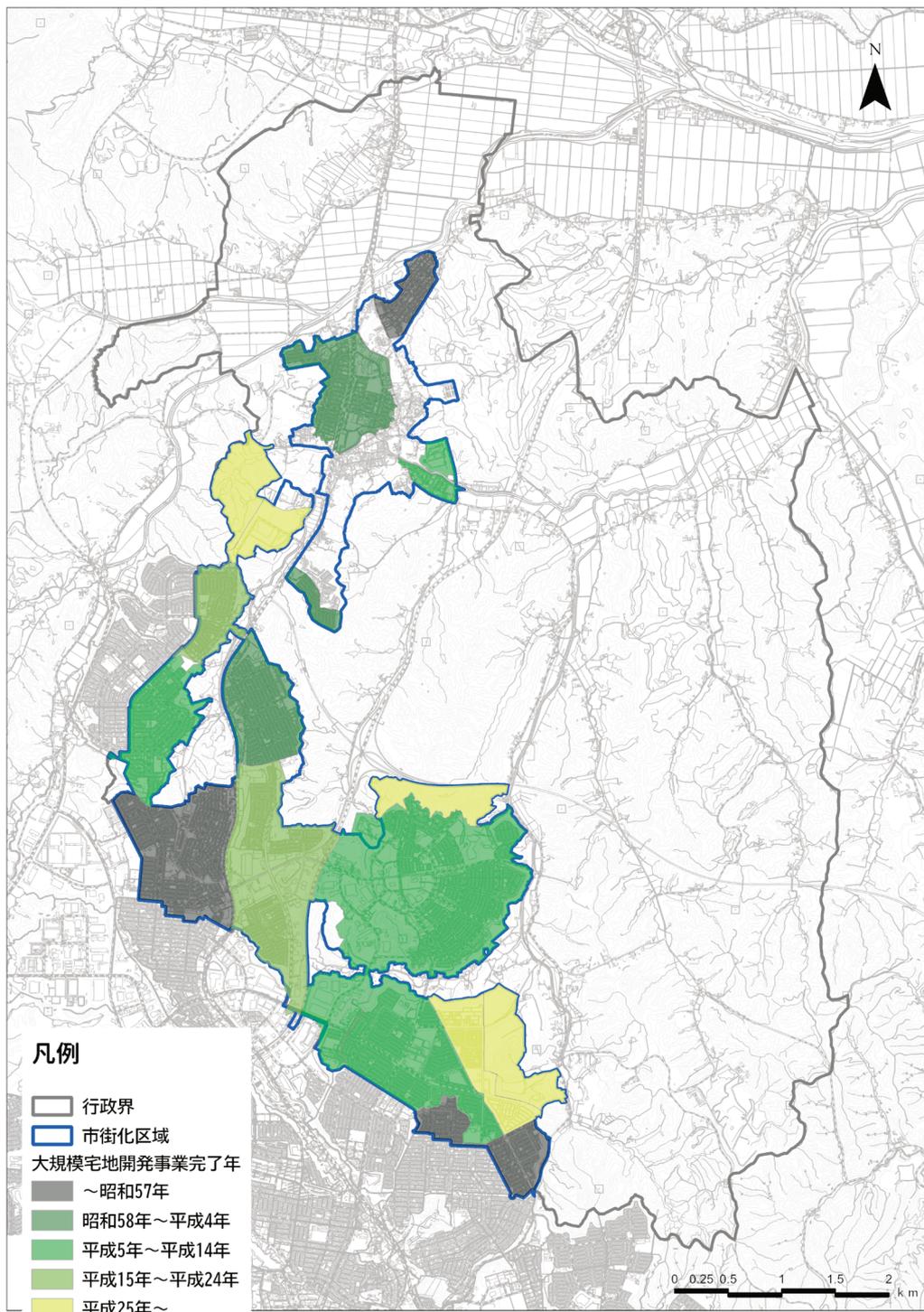


資料：市子育て支援課提供資料（子育て支援施設）、宮城県医療機能情報提供システム（医療施設）、住宅地図（商業施設）より作成
 子育て施設：市立保育所・認定こども園・認可保育所・小規模保育事業所
 医療施設：病院・診療所のうち内科と小児科を含むもの
 商業施設：スーパー・コンビニ・ドラッグストア

④ 市街地形成状況

本市は昭和 50 年代以降の大規模な面整備により計画的に市街地を拡大してきました。現在も、宅地需要が継続し、新規の団地整備を図っている一方で、東向陽台、鷹乃杜、太子堂、富ヶ丘、あけの平、とちの木の住宅団地では整備後 40 年以上が経過しており、今後住宅・インフラ施設の老朽化や、空き家の増加等が懸念されます。

＜本市の市街地形成状況＞

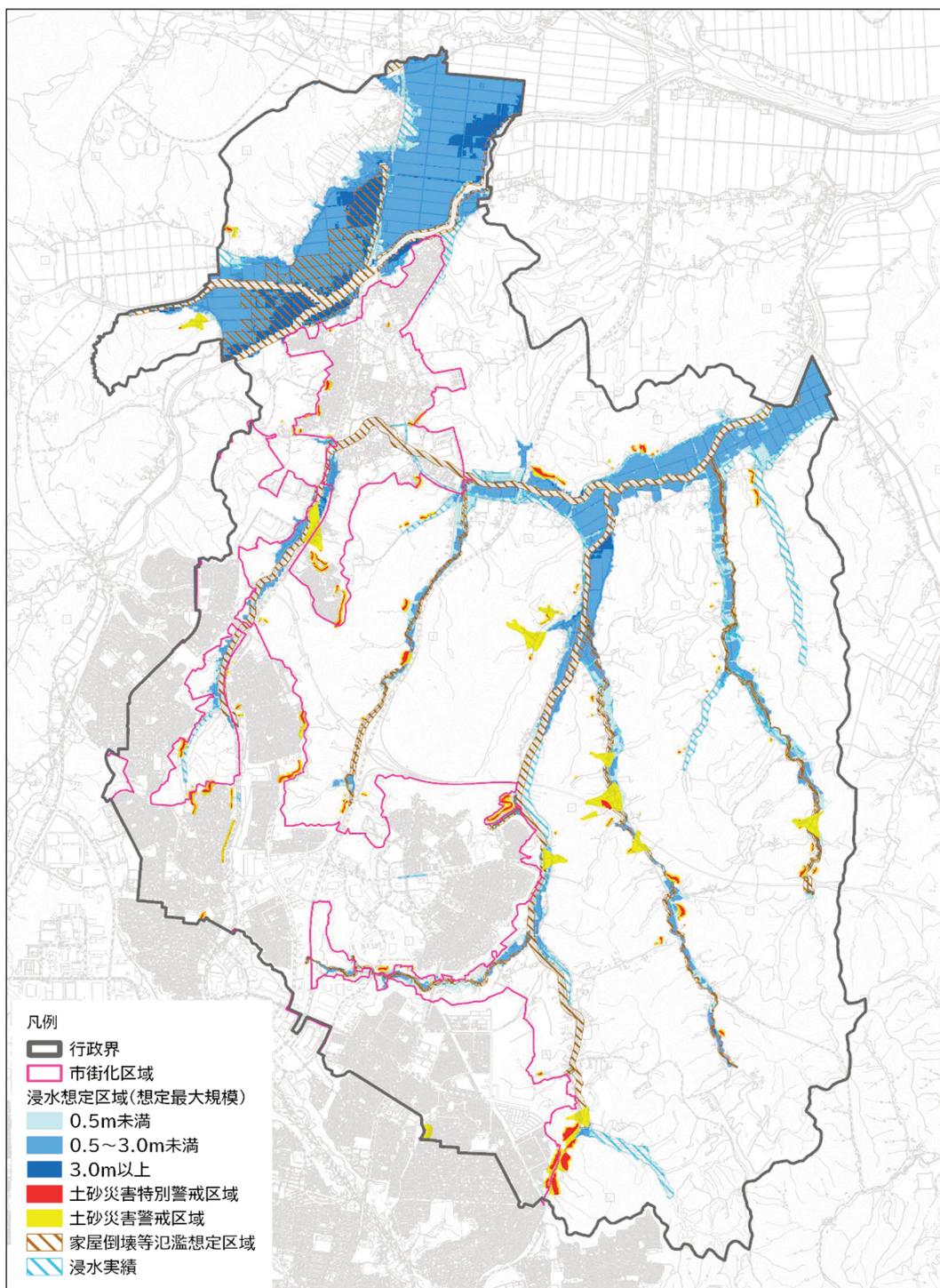


資料：仙塩地区都市計画基礎調査・市都市計画課提供資料より作成

⑤ 災害ハザード

本市では市街地の周辺及び市街地内の一部で土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域が分布しており、豪雨時における発災が懸念されます。なお、河川の氾濫に伴う浸水が田園地帯で予想されていますが、家屋等の浸水のリスクは低いと予想されています。

<本市の土砂災害警戒区域等の指定状況>



資料：富谷市洪水・土砂災害ハザードマップ

2 都市の将来像・まちづくりの方針

本市では、「富谷市総合計画」において「住みたくなるまち日本一～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～」をまちづくりの将来像として定め、この実現にむけた取組を進めています。

「富谷市都市計画マスタープラン」及び「富谷市立地適正化計画」では、総合計画におけるまちづくりの将来像や本市を取り巻く都市の状況を踏まえ、本市の都市の将来像・まちづくりの方針を以下の通り定めます。

<都市の将来像・まちづくりの方針>

未来へつながる田園都市

～ 都市と自然が調和するまちづくり ～

本市は豊かな自然の中に、生活環境の整った良好な市街地を形成することで、多くの人々が豊かに暮らせる、田園都市構造を形成してきました。これからは「住みたくなるまち日本一」の実現に向け、このような田園都市構造をさらに発展させ、市街地の魅力向上と集落環境の充実を図りながら、市街地と集落間での人・モノ・情報・経済を交流・循環させることで、富谷市における暮らしの魅力を総合的に高め未来にわたって人々を惹きつける持続可能な田園都市をめざします。



<富谷市総合計画におけるまちづくりの基本理念>

富谷市総合計画 基本構想

将来像
基本方針
基本理念

住みたくなるまち日本一

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～

4つの基本方針の推進で目指す将来像を実現していきます

<p>基本方針-1 暮らしを自慢できるまち!</p>	<p>基本方針-2 教育と子育て環境を誇るまち!</p>
<p>基本方針-3 元気と温かい心で支えるまち!</p>	<p>基本方針-4 市民の思いを協働でつくるまち!</p>

6つの基本理念から4つのまちづくり基本方針を推進していきます



資料：富谷市総合計画後期基本計画

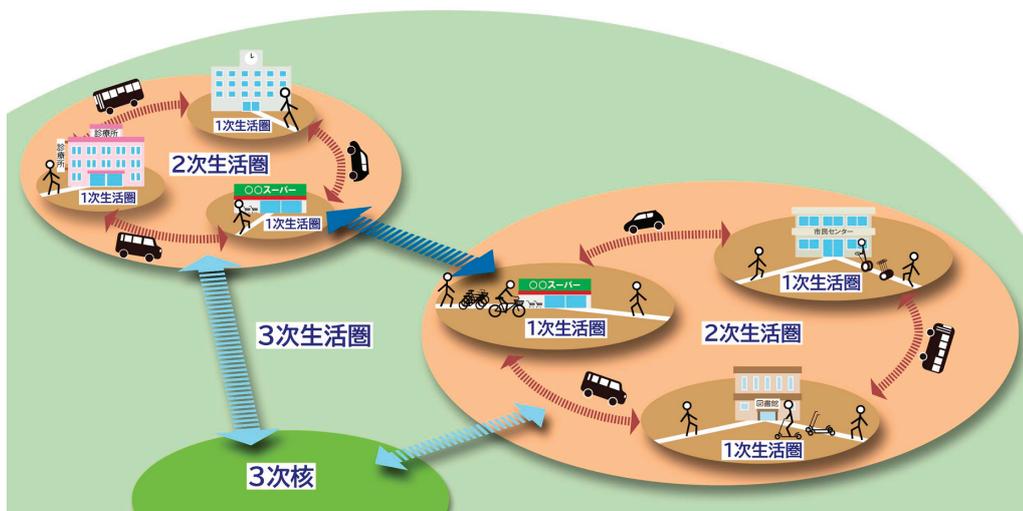
3 将来都市構造

① 富谷市の生活圏の考え方

本市は、主に住宅団地の整備に連動した都市づくりを進めてきたことから、住宅団地を基本とした身近な生活圏が形成されています。さらに、立地する都市機能によっては、より広域の生活圏を形成しているものも見られます。このような現状認識の下、本市の市民生活圏は以下のように整理することができます。

生活圏の種類	各生活圏の特性
1次生活圏 (主に団地単位)	毎日の通学（小学校）や毎日の買い物・通院等、最も頻繁で身近な生活行為が展開される生活圏
2次生活圏 (主に地域単位)	週に一度の買物（日用品のまとめ買いや買い回品等）・通院や公益サービスの享受等が展開される生活圏
3次生活圏 (都市外も含む)	月に一度の買物（買い回品等）サービスの享受等が展開される生活圏

<富谷市の生活圏のイメージ>



② 富谷市の市街地形成の考え方

将来都市構造を設定する上で、本市の将来的な市街地形成の考え方を以下のように設定します。

市街地・拠点の種類	形成の考え方
住宅市街地	全国的な人口減少社会の到来を背景として、今後の住宅市街地は、地域の特性に応じた環境整備や維持管理に重点を置く。
商工業市街地	社会情勢の変化に応じて既存機能の更新や新規整備・拡大を適宜行っていく。

③ 将来都市構造

本市の将来都市構造は、都市機能の集積や地域資源の活用を図っていく「拠点」、土地利用を計画的に推進していく「ゾーン」、そしてそれらを連結し相互の連携や活性化を図る「軸」の3つの要素で構成します。

<都市構造の設定の考え方>

【拠点】

本市の将来都市構造の拠点は、上位関連計画、現状の都市機能分布、土地利用状況などから設定します。

<拠点設定の参考資料>

- ・仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針「主要用途の配置の方針」（P10 参照）
- ・富谷市公共交通グランドデザイン「交通体系の将来像」（P11 参照）
- ・都市機能分布（P15 参照）

都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体の暮らしの魅力を牽引する場として拠点機能の向上を目指す ⇒上位関連計画の位置付けや都市機能の集積状況、主要な公共交通の運行、良好な基盤整備状況を踏まえ、成田・大清水・明石台地区に設定。
中心拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の歴史・文化を活かした観光拠点として、また、行政サービスを提供する拠点としての役割を担う場を目指す ⇒上位関連計画の位置付けや都市機能の集積状況、主要な公共交通の運行、歴史・文化的な特性を踏まえ、しんまち地区に設定。
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活の中心として、身近な生活サービスを提供する場を目指す ⇒良好な基盤整備状況を踏まえ、都市拠点、中心拠点以外の住宅市街地の中心部に設定。
産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の雇用・産業活力を支える拠点をを目指す ⇒成田地区や高屋敷地区の既存工業団地及び成田二期北地区に設定。
集落中心	<ul style="list-style-type: none"> ・集落部のコミュニティの中心として、また、自然環境を守り、利用するための役割を目指す ⇒集落住民が地域活動等において集まりやすい場所として、集落部の集会所周辺に設定。

【ゾーン】

住環境向上住宅地	・都市拠点周辺の市街地を「住環境向上住宅地」として位置付け、現在の高い利便性に加えて新たな暮らしの魅力を創出し、子どもからお年寄りまで誰もが豊かに暮らし続けられる市街地の形成を目指す。
文化・住環境循環市街地	・中心拠点周辺の市街地を「文化・住環境循環市街地」として位置付け、多様な世代・属性の人々が思い思いに暮らす市街地の形成を目指す。
住環境循環型住宅地	・地域拠点周辺の市街地を「住環境循環型住宅地」として位置付け、現在の良好な住環境を活用し、ファミリー層を中心とした居住が循環する市街地の維持を目指す。
工業地	・成田地区、高屋敷地区の既存工業及び成田二期北地区を「工業地」として位置付け、本市の産業の集積を図る。
自然利活用ゾーン	・市北部から東部にかけて広がる田園地帯及び里山を「自然利活用ゾーン」として設定し、優良農地等の保全・活用を図る。
自然環境保全ゾーン	・市東部に広がる森林地帯を「自然環境保全ゾーン」として設定し、良好な森林環境の保全を図る。

【軸】

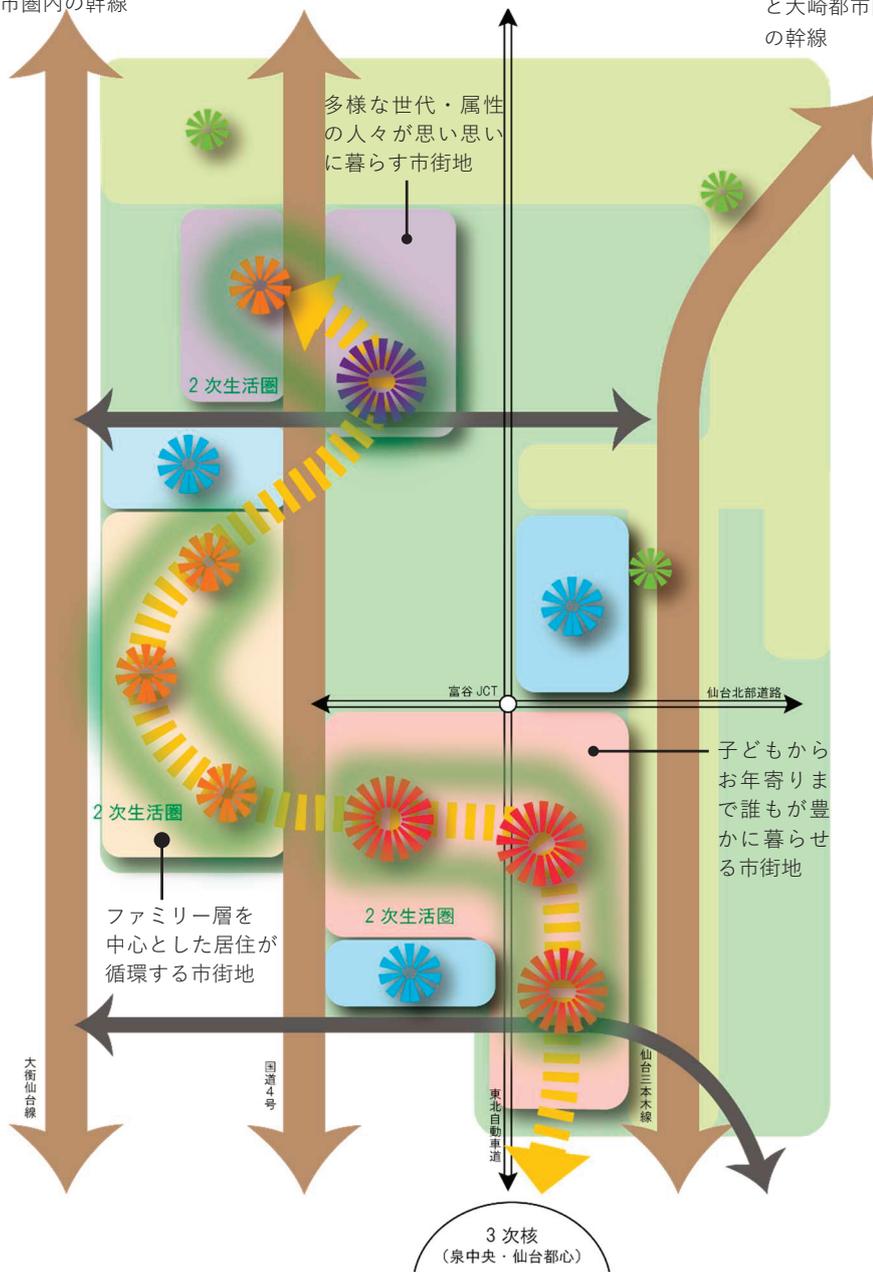
機能連携軸	・都市拠点、中心拠点、地域拠点間を結び、各拠点が有する機能を相互に補完する軸を「機能連携軸」として設定。
広域交通軸、補完交通軸	・本市の背骨となる骨格を形成するとともに、富谷市以北と以南の都市・都市圏を結び広域的な人の移動・物流を支える交通軸を「広域交通軸」として設定。また、本市の市街地の骨格であり、東西方向の人の移動・物流を主に支え広域交通軸を補完する主要幹線及び拠点間を半環状に接続し国道4号（広域交通軸）への円滑な交通処理を担う幹線を「補完交通軸」として設定。

＜本市の将来都市構造図＞

仙台市と
黒川都市圏を結ぶ
都市圏内の幹線

広域的な人の移動・
物流を担う幹線

国道4号等を補完し、仙台市
と大崎都市圏を結ぶ都市圏内
の幹線



- 都市拠点
- 中心拠点
- 地域拠点
- 産業拠点
- 集落中心
- 住環境向上住宅地
- 文化・住環境循環市街地
- 住環境循環住宅地
- 工業地
- 自然利活用ゾーン
- 自然環境保全ゾーン
- 機能連携軸
- 自動車専用道路
- 広域交通軸
- 補完交通軸

4 立地適正化計画の基本方針

都市の将来像や将来都市構造の実現に向けて、立地適正化計画における基本方針を以下のとおり設定します。

1.高齢化の進行に備えた歩いて暮らせる市街地の形成

本市では今後10年程度は人口が増加するものと予想されています。しかしながら、高齢化の進行は既に始まっており、今後も市街地の大部分で高齢化が進行するものと予想されています。「住みたくなるまち日本一」を目指す本市では、高齢になっても、便利で豊かに暮らせる都市を実現するため、身近な移動環境の充実や生活サービス機能の維持・充実、多様な世代が楽しめる都市機能の集積等を図っていきます。

2.公共交通の充実と連携した都市拠点の形成

本市では、通勤時における道路混雑等に伴い、公共交通の利便性向上を求める声が顕在化している状況にあり、この改善に向けた公共交通の強化に取り組んでいます。「住みたくなるまち日本一」の実現にあたっては、将来公共交通網を見据えた都市拠点や居住地の形成を進め、市民が住み続けたいとなる環境の整備を図っていきます。

3.都市と自然の調和・循環の促進

本市では、豊かな自然との調和に配慮しながら市街地の整備を進め、多くの人々が豊かに暮らせる、田園都市構造を形成してきました。人の暮らしと自然が身近な関係にある本市の特性は、多様な働き方や暮らし方、持続可能性といった昨今の社会的要請に応える潜在性を秘めています。今後も自然との調和に配慮しながら、市街地の拠点形成を進めつつ、集落も含めたネットワークの形成を進めることで、市街地と集落間の人・モノ・情報・経済の循環を促し、富谷の魅力を高めていきます。